

おぼろげにらいてうを記念する会二十年

らいてうは死なず

櫛田 ふき

五月二十四日、らいてう忌は予期以上の成果を収めた。東京、近県は勿論、北海道、九州など全国からの参加者の熱意に支えられ、和やかに、楽しく、有意義に終始したことを、私は主催者を代表して心からの感動をもって感謝を表明する。神崎愛さんが、らいてう好みのうす紫のリボンで飾った装いでフルートを奏でたひととき、美しい舞台と妙なる調べに満場は魅了された。日色ともゑさんの、らいてう二十八歳にして「独立するにっいて両親に」の朗読も、らいてう精神の



真髓として受けとめた。

瀬戸内寂聴尼（作家）も紫の衣で愛の笑顔で登場。事実にもとづき、具体的にユーモア交えて、独自の蘊蓄傾けて描き出したらいてう像も、得難いらいてうメッセージとして味わい深く心に刻んだ。参加者からのアンケートを通して、らいてうの思想と行動が若い世代にも共感をもって伝承されたことを知り、らいてうを記念する会としての希望と勇気を与えられたことを喜んでゐる。

（常任世話人代表）

閉会あいさつ（要旨）

小林登美枝

一九七一年五月二十四日、らいてう没。青山斎場で喪主奥村敦史氏は「母の長い生涯には、傲慢とも矛盾、撞着とも見られるものがあつたでしょうが、目をと

じた今、多くの方々が、この母を容認してくださることをお願いいたします」と挨拶された。

らいてうの明治末年からはじまる女性解放のたたかいは、なまやさしいものではなかつた。ら



いてうは生涯にわたつて女であることにこだわりました。女性

性の解放は単なる男女同権、男女平等ということではなく、女は女として解放されるべきだと言った。「私たちは『女性』から解放されるのではなく、真の『女性』として解放されねばならない」という立場からの、産む性である母性の尊重、子どもの権利を主張する思想は、いのち、平和の願いへとつながる。

らいてうが、大正時代から主張してきた母性主義、平和主義の主張の一部は、国連の女子差別撤廃条約にもとり入れられている。らいてうを好きな人も嫌いな人も、今日に生きるらいてうから、学ぶべきものを学んでいただきたいと思う。

（常任世話人）

聞こえますか らいてうからのメッセージ

1994年らいてう忌

平塚らいてうは、一九七一年五月二十四日、八十五歳の生涯を閉じました。らいてう忌「聞こえますか、らいてうからのメッセージ」が五月二十四日、東京・千駄ヶ谷の津田ホールで開かれ、約五百人が参加しました。開場二時間前から行列が出来、満席のため、ロビーのテレビ画面で見る参加者もありました。

開会のあいさつは榎田ふきさん。「烈しく欲求することは事実を産むもっとも確実な真原因である」というらいてうの言葉を引いて「私たちの熱意さえあれば、らいてう記念碑、



司会の折井さん

記念館建立の実現も夢ではない」と協力を訴えました。朗読は女優の日色ともゑさん。二十八歳のらいてうが五歳下の画家志望の青年、奥村博史を愛し、因習にとられない結婚を宣言した「独立するについて両親に」をさわやかに読みあげました。



朗読する日色ともゑさん

参加者の感想から

〈アンケートは一三四枚回収〉
●よかった一二七、まあよかった五、あまりよくなかった一。●初参加九二、過去一回二四、二回四、数回三。●会員八、非会員一〇四、今回入会二六。●催しを知った紙誌等 朝日、読売、毎日、東京、サンケイ、日経、信濃毎日、赤旗、新婦人、婦民、婦人通信、友人、チラシ等。(無記入の項目あり)

●感想 講演が楽しかった。感動した。らいてう、寂聴さんとも人間的魅力が浮き彫りに。勇気づけられた。らいてうが身近になった。初心者にもわかりやすかった。行動の大切さを痛感。らいてうの新しさに学習の意欲が湧いた。禅の思想や戦時中の話も聞きたかった。開会・閉会のあいさつに愛情が感じられ、感激した。音楽、朗読とも素敵だった。

らいてうの新しさ

瀬戸内寂聴さんが記念講演

「五分の子どもと三分の女と二分の男」をもった年下の奥村博史を愛し、

記念講演は作家の瀬戸内寂聴(晴美)さん。瀬戸内さんは、田村俊子、岡本かの子、伊藤野枝、らいてうと、多くの伝記小説を書かれたので、お話はエピソードを交えて楽しく面白く、また現代の風潮との比較もされて軽妙で辛らつ、ざつくばらんな親しみやすい語り口に、場内からしばしば爆笑と拍手が湧きました。まず「相談したわけでもないのに、ちょうど話そうと思っていた部分を事前に日色さんに朗読していただ

いた。らいてう先生の靈魂がこのような因果関係を作ったものと感動している」といわれ、この「独立宣言」の中に、らいてうの思想の新しさがすべて盛り込まれていると強調されました。

また、お互いにしたい仕事があるから子どもはいらぬといっていました。子どもができてしまうと、世間をはばかることなく私生児とし、母乳で育てようというの思想は、家庭生活を持ってからのらいてうの思想は、実生活に根ざし、社会に目を向け、やがて世界平和を願って行動するまでに大きく広がります。

(撮影 塩谷満枝)



混雑もなく整然と受付



太陽の女性「らいてう忌」に500人

「愛のよろこび」など三曲

フルート 神崎 愛さん

舞台衣装を三着持参した神崎愛さんは、「らいてう色」の紫に合わせ、薄紫のドレスを選びました。

「愛のよろこび」「あま色の髪の乙女」「ベニスの謝肉祭」の三曲を華麗に吹奏。参加した若い女性は「美しい神崎さんのフルート独奏に陶醉しました。年休をとって参加したかがありました」と語っていました。



また、お話をエピソードを交えて楽しく面白く、また現代の風潮との比較もされて軽妙で辛らつ、ざつくばらんな親しみやすい語り口に、場内からしばしば爆笑と拍手が湧きました。まず「相談したわけでもないのに、ちょうど話そう

平塚らいてうと雑誌「青鞥」を通してみた日本におけるエレン・ケイの思想の受容に関する考察

タチアナ・ダールグレン

タチアナ・ダールグレンさんはストックホルム大学日本学科に籍を置き、七カ国語に通じる女性研究者。一九九二年九月から一年間日本に来て、エレン・ケイの思想が日本でどのように受け入れられたかを中心に研究を深めて帰国しました。

(小林登美枝)

スウェーデンでは、エレン・ケイの思想が一九一一年頃、日本に伝わっていたということはあまり知られていません。エレン・ケイの思想のどこが日本人の関心を引きつけたかを調べることは価値のあることです。この点で、らいてうは最も重要な人物です。

らいてうはケイを研究し、らいてう自身の中に奥深く根づいている思想をケイの中に見いだしました。らいてうの愛、結婚、離婚、母性などの問題に関する思想形成において、ケイは触媒の役割を果たしているようです。らいてうはなぜケイに関心を抱き、どのくらいケイに影響

されたか？ケイを読んだ後に、らいてうの思想はどのように修正され、あるいは強化されたか？異なった二つの文化、二つの社会ですが、女性の問題は同じであり、当時の社会構造もある程度同じです。研究の重要な点は、二人の女性の著作について考え、彼女たちの個人的、社会的背景を知ること、二人が影響を受けた思想的潮流を見極めることです。

私がエレン・ケイについて考えるとき、大きな助けになっているのは彼女が住んでいた家、ストランドに私が滞在したことです。それはスウェーデン南部の湖フアーテルンの美しいほとりにあります。一九一〇年から一九二六年に亡くなるまで住んでいたエレン・ケイの魂が、家のすみずみにまで宿り、ここに滞在すると実際に彼女に会ったような気がします。西洋の影響がらいてうの「青鞥」に見事に映し出されたこの時代は、果てしない興味を抱かせます。なお、「青鞥」に登場するスウェーデン女性には、ソーニヤ・コプレスキーとC・レツファアがいますが、彼女たちもケイの友人です。

(抄訳)

事務局メモ

3月21日 発起人小松ときさんの「九十歳を祝う会」(神戸)に出席。入院中の城ゆきさん(世話人)を京都に見舞う。

(立松)。

4月5日 ニュース第五号発送。

4月19日 来年四月オープン予定の世田谷文学館開設準備室を訪問・懇談(折井、立松)。

5月6日 茅ヶ崎で「らいてう碑建立の会」準備中の代表と懇談(小林、立松)。

5月13日 常任世話人と関係者有志、津田ホール下見。

5月19日 「らいてう忌」準備のための最終常任世話人会。

5月24日 満員盛況裡に一九九四年「らいてう忌」終了。NHKラジオ「今日の夕刊」で榎田常任世話人代表のインタビューが放送された。

6月10日 常任世話人会。今回からニュース作成に塩谷満枝さんが参加する。

□ 謹 弔

尾崎隆、沼田睦子、三木夫美(敬称略)

□ 賛助会員紹介は次号に。